

上海市の製造業における労働者雇用状況

西尾 麻里

先日、上海市人力資源・社会保障局が「市内製造業企業の労働者雇用状況に関する報告」を発表しました。製造業は「世界の工場」と呼ばれる中国の産業の柱であり、人材の受け皿としても重要な役割を果たしています。中国政府は「中国製造 2025」という戦略を出し、上海市では、「十三五（第13次5か年計画、2016～2020年）」において、市のGDPのうち製造業が占める割合を25%前後で維持していく計画です。本報告では、製造業で働く労働者の特徴や労働者数の変化、趨勢などを研究分析し、失業リスクの予防や、業界の発展を促進するための参考データとして発表しています。

<製造業の労働者数は減少>

統計データによると、2017年3月の上海市製造業労働者数は189.8万人で、前月比1.0%減、前年同期比5.3%減でした。近年の趨勢からも全体的に下降していることがわかります。上海全体の労働者における製造業の割合は、2012年3月の28.4%から2017年3月の21.2%まで減少しています。専門家によれば、これはアメリカや日本などの先進国が辿ってきた道でもあります。つまり、20～30年の成長期を経た製造業は、製造量の追求から品質の追求へと変化し、それに伴って労働者数も下降していったことが、上海でも起きていると分析しています。

<就業期間は長期化(旧正月の人材流出も減少)>

上海市以外の地域から出稼ぎに来ている労働者の数値をみると、上海市で製造業に携わる全労働者のうち、出稼ぎ労働者は110.3万人で、5年前の同期比で14.8万人減、減少率は11.8%となっています。その出稼ぎ労働者の95.4%は2017年の旧正月休暇明けの翌月末までには上海に戻り、就業を再開していました。近年は、旧正月休暇後の早いうちに戻ってくる労働者が増加しています。これまで人材流動の節目と捉えられていた旧正月が製造業に与える影響は少なくなってきたようです。上海市が出稼ぎ労働者に対しても公平な労働保障を打ち出し、労働環境を改善し続けたことが大きな要因です。そして離職率の低下にも効果を発揮しています。

実際、上海市製造業労働者の就業期間が平均30.4ヶ月で、2012年の同時期より8.6ヶ月増加しているというデータがあり、安定した就業を求める労働者が増えていることがわかります。

<業種別労働者数の推移>

アパレル業の労働者数は、2012年3月の13.8万人から2017年同時期の6.4万人まで減少し、減少率は53.6%となっています。全製造業においてアパレル業が及ぼす影響は大きく、アパレル業の労働者数減少が製造業全体の労働者数減少に繋がっています。

一方で、自動車産業では、2012年3月の14.2万人から2017年同時期の16.8万人まで増加し、増加率は18.3%。医薬産業では、同4.1万人から4.4万人まで増加（同7.3%）し、IT業界では、同27.2万人から27.5万人まで増加（同1.1%）しました。中国が世界の自動車産業の中心となった今、自動車保有率が上昇する余地があり、同産業の益々の発展が期待されています。特に、「インターネットプラス」としてインターネットと製造業との深い融合で産業改革が引き起こされ、新しい生産方式や産業形態、商業スタイルが構築されており、自動車産業においては、さらに多くの就業チャンスがもたらされるだろうと、専門家が予想しています。

上海の産業構造が高度化し、ブルーカラーからホワイトカラーへと人材市場が変化、製造業への就業を希望する人材が減少しています。それに伴い、製造業の給与が上昇しており、企業としても素質の高い人材を呼び寄せる材料として有利に働くと、専門家はみています。加えて、労働者のモチベーション向上、労働生産率の上昇にも好影響がもたらされるのではないでしょう。